

もの言う牧師のエッセー 第64話

「ゼロ・ダーク・サーティ」

2011年5月2日に行われた、米海軍特殊部隊による国際テロ組織アルカイダの指導者、ウサマ・ビンラディン容疑者の極秘暗殺作戦を描いた映画「ゼロ・ダーク・サーティ」(軍隊用語で午前0時半の意味で本作戦決行時)が何かと話題だ。

この映画の製作話が持ち上がったのが作戦成功から僅か22日後だったことからソニー・ピクチャーズの力の入れようが分かるが、当時大統領選がたけなわだったことから、作戦成功の“功労者オバマ大統領”の再選を阻止せんとする共和党から「プロパガンダだ」と激しい横槍が入り、この映画の公開が10月12日から選挙後の12月19日にされてしまったことや、民主党議員らからも映画に出てくる激しい拷問場面を問題視して非難声明を出すなど色々あった。その上このほどアカデミー賞の監督賞候補から漏れるというおまけまでついた。ハリウッドでは当初から候補入りは確実とみられていた“大本命”であったにもかかわらずである。

監督は2010年にイラク戦争における米軍爆弾処理班を描いた「ハート・ロッカー」で、アカデミー賞の作品賞をはじめ6部門を受賞し今や波に乗るキャサリン・ビッグロー女史である。しかも映画の主人公は容疑者のアジトを執念で見つけ出した若干30歳前後の実在するCIA女性捜査官で、これがまたかなり“胆”の据わった人物と聞く。

片や政府や世論を向こうに回して戦う美人監督と、一方で天下のお尋ね者を追い詰めた優秀な女性捜査官という何ともスリリングな2人を見て、聖書の士師記に出てくる敵を追い詰めた女預言者デボラと、その敵にトドメを刺した鍛冶屋の妻ヤエルを思い出した。

「ヘベルの妻ヤエルは天幕の鉄のくいを取ると、手に槌を持ってそっと彼のところへ近づき、彼のこめかみに鉄のくいを打ち込んで地に刺し通した。彼は疲れていたので、熟睡していた。こうして彼は死んだ。」同4章21節

と、男性のみが戦争で活躍する今から3050年前に、逃亡先で寝てしまった敵の将軍を、味方の男どもがもたついている間に討ち取った女性のことが生々しく描かれ、その結果イスラエルが長らく平和を保ったことも記録されている。実は意外にも聖書は“戦いの書”でもある。それは

弱い者や見下されている者、迫害される者が キリスト/救い主 の神の力で勝つことの出来る、素晴らしい作戦指南書なのである。

2013-1-20

